

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2016年12月23日

[テーマ] 便利な県内道路網—県境の名物食堂探訪—

日本銀行は、いかなる時にもわが国の中央銀行としての責務を果たすことができるよう、銀行券の円滑な流通や決済システムの運行を確保するための業務継続体制の充実に努めている。前橋支店においても、災害など業務遂行上の脅威が発生した場合に県民生活に重大な影響が及ぶことがないよう、日頃から適切な対応を検討して業務継続計画の実効性を着実に高めてきている。

だからという訳ではないが、私はめったに県外に出ない。東京へ行くのは3カ月に1度、支店長会議の時だけだ。歴代の前橋支店長も、できるだけ県外に出ないよう心掛けていたらしい。前橋—館林の往復に国道50号を利用するといったん県外に出してしまうので、遠回りして国道354号を使っていたという話も残っている。

さすがに私は、便利な高速道路網を利用しない手はないと、北関東自動車道と東北自動車道を乗り継いで館林へ向かうのであるが、県外に出ている間は先輩たちの怖い顔がどうしても脳裏にチラついてしまう。結局のところ、いつも県境を強く意識しながら、行動しているのである。

そういう私は、今年後半のテーマとして、県境ギリギリを試すことをひそかな楽しみとしていた。群馬は交通の要所であり、他県と行き来する道が数多くある。そこで夏には、涼しさを求めて沼田インターチェンジ（IC）から日本ロマンチック街道を通って金精峠まで行ったり、やはり日本ロマンチック街道を通って鳥居峠や浅間牧場へ行ったりした。秋には、水上ICから温泉に寄りつつ谷川岳に登り、紅葉を求めて桐生から渡良瀬溪谷や桐生川をさかのぼった。もちろん、藤岡から神流町・上野村を經由して十国峠近くにも行ってみた。

さて、先日。県境シリーズの取りあえずの締めくくりとして、群馬・栃木・埼玉の3県境を訪れた。県境は山間部や川の中にあることが多く、平地にあるこの3県境は全国的にも珍しいとのこと。空っ風の吹きすさぶ中、県境に立って記念撮影をし、何とか風邪をひかずに帰ってこられたのは、この場所がパワースポットであるおかげか？

それはそれとして、行ってみて気付くのは、街道沿い、とりわけ県境に近いところでは、ドライバーの方々が立ち寄る名物食堂が必ずあるということ。事前情報が無くても、駐車場に止まっている車がおいしさを保証してくれる。それでも心配なら、お店から出てきたばかりの人に尋ねればよい。

私のお気に入り、碓氷峠の手前、横川駅前にある食堂。初めて入る時には勇気の要る、年季の入った外観であるが、私はおいしい定食と昭和の雰囲気を求めて近くに行ったら必ず寄ることにしている。おじさん、来年もよろしくお願いしますね。

〔 日本銀行前橋支店長
 神山 一成 〕